対面での内容討議による散文理解の促進（II）：対人態度向上

Metaphor use to enhance collaboration in web-based text reading II

光田　基郎
Mitsuda Motoo
（ノースアジア大学・経済学部）
North-Asia University(mitsuda@nau ac.jp)

Abstract: This study explores how learners in small groups influence each other in computorized text comprehension tasks.

Keywords:metaphor,collaboration,text reading

目的：web 上の協調学習形式の散文理解での比ゆ,類推と教示効果による理解促進（光田,日心'11）に引き続き,対面討議での理解促進,特に教示と比ゆ理解による表象図式化と討議内容収束による集団内対人態度(課題志向性,親和性とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ)変容を強調する。

方法：（イ）課題:（a）「No.2 の人間学」（ﾌﾟﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ誌'91）より「組織の No2 は現在のﾄｯﾌﾟと一体化して次のﾄｯﾌﾟの気配を否定すべき」と述べた箇所 34 文を書き改め,「源義経は鎌倉政権の No.２の役割を無視して破滅,豊臣秀吉は農民出身で部下を持たずﾍｯﾄﾞﾊﾝﾄで軍隊を組織し,登用された部下がその家来をﾍｯﾄﾞﾊﾝﾄするﾋﾟﾗﾐｯﾄﾞ*型の組織ゆえ*,軍の拡大防止に苦慮したが秀吉の弟は*ﾏﾈｰｼﾞｬｰ役*で政権を支え,足利尊氏の弟は野心のない実務家でも兄の側近との対立で失脚,*三本の矢の例の*毛利家３兄弟は野心より内部の均衡と結束を考えて滅亡を回避し,周恩来はﾄｯﾌﾟの補佐役に徹して粛清を免れたほか,秀吉の参謀で野心家の黒田如水は全国統一後には秀吉に警戒され引退する」内容を画面で閲読後にその逐語・推理再認検査を６項,(b) 下位技能（閲読と無関係の類推,比ゆ理解,ｄ,ｃ,e,b,？の文字系列の推理,「松, 杉,桧,樅→横」の過剰類推ほか）(c)上記の登場人物相互間の類似度評定とその確信度の５段階評定値のそれぞれのマウス入力を求めた.(ロ)参加者・手続き：ﾉｰｽｱｼﾞｱ大１年生 49 名が実習用画面で個別に参加.上記文を１文ずつ参加者のペースで閲読.参加者の半数は材料文の閲読後に小集団で 15 分間の内容討議の後に再認と下位技能検査, 半数は理解検査後に内容討議を行った.各群の 1/3 は上の材料文中に斜体で例示した比ゆ的表現と上記の「No.2 は今のﾄｯﾌﾟと一体化して・・」との先行オルグ, １/3 は先行オルグのみ.残る 1/3 は無教示の計６群にほぼ等数ずつ割り当てられた.(ハ)評価：文の閲読と再認検査後に集団内対人態度（Bales & Cohen' 78）として,(a)親和性,(b)課題志向性と (c) ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの自己評定値と成員の相互評定値並びに(d)同調傾向並びに集団内で自己制御程度などの自己評定値（５段階評定）の入力を求めた.

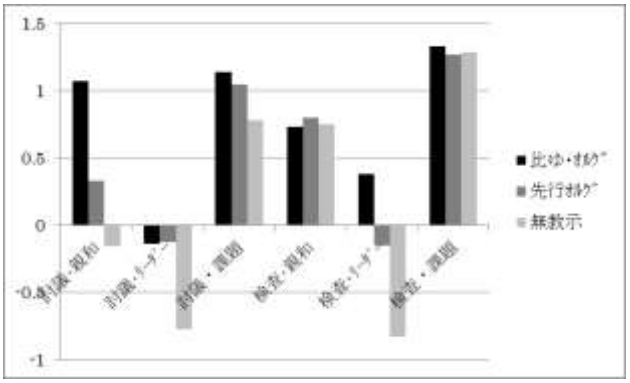

図１．教示毎に見た集団内対人態度相互評定値

結果：(イ)上記（ロ）の教示（３条件）x 討議先行 vs 検査先行(２条件)の共分散分析の結果,親和性とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの相互評定値は教示による促進効果を示す主効果(5%ﾚﾍﾞﾙ)と,（ロ）比ゆと先行オルグ並びにオルグのみを提示した条件下ではリーダーシップの相互評定値と自己評定値（提案した, 意見集約したなど）の相関係数値が高い(5%ﾚﾍﾞﾙ)結果が得られた.この他,思考動機と積極性との相関係数値も同様の結果を示し得た。（ハ）討議先行・比ゆと先行オルグの併用条件下では,評価懸念と,同じクラスター内の項目間の類似性判断時間の相関係数が高い反面,集団への同調を避け自分の内面に配慮する程度と上記の項目間の類似性判断の時間との相関は無教示条件下で最大となる.以上より,討議先行条件では検査先行条件と比較した場合,討議集団の成員が個別に検索した既得の知識表象に制約されず, 直接的･指示的な手がかりに従う方向での内容理解を試みて討議内容を収束する.

考察： web 上でなく対面での内容討議が再認とその下位技能検査に先行する際は, 閲読文の比ゆ的な理解を求めた際に不完全な初期理解の共有(亀田,'97)の他, 教示によるリーダーシップと親和性の促進が示される.一方で,同調や社会的手抜きの危惧も生じる.